

平成 16 年度科学研究費補助金（基盤研究（S））研究状況報告書

ふ り が な		かとう やすたけ					
研究代表者 氏 名		加藤 泰建		所属研究機関・ 部局・職		埼玉大学・教養学部・教授	
研究 課 題 名	和文	先史アンデス社会における文明の形成プロセスの解明					
	英文	Studies of the Process for the Formation of Ancient Andean Civilization					
研究経費		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	総 合 計
16年度以降は内約額 金額単位：千円		15,500	16,000	16,000	16,200	14,000	77,700
研究組織（研究代表者及び研究分担者）							
氏 名		所属研究機関・部局・職		現在の専門		役割分担（研究実施計画に対する分担事項）	
加藤 泰建		埼玉大学・教養学部・教授		文化人類学		クントゥル・ワシ神殿遺跡データベースの 作成および全体統括 クントゥル・ワシ神殿遺跡で出土した資料の 整理・分析と再検討 山間盆地カハマルカの総合調査および、山地 パコパンバ神殿の発掘調査 ヘケテペケ河谷流域・海岸平野部の総合調査 および神殿遺跡の発掘調査	
井口 欣也		埼玉大学・教養学部・助教授		文化人類学			
関 雄二		国立民族学博物館・研究戦略センター・助教授		文化人類学			
坂井 正人		山形大学・人文学部・助教授		文化人類学			
当初の研究目的（交付申請書に記載した研究目的を簡潔に記入してください。）							
（１）クントゥル・ワシ神殿遺跡データベースを作成する。 1988 年以来 11 シーズンにわたって実施した先史アンデス形成期中・後期（前 1100 - 前 250 年）の大神殿クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査で得られた膨大な一次資料をあらためて整理し、再検討を行う。これらのデータをデジタル情報化し、遺跡データベースを作成、クントゥル・ワシ神殿の学術調査結果の集大成として、ひろく内外の研究者に公開する。 （２）関連地域における複数の神殿遺跡の調査によりデータを充実させる。 クントゥル・ワシ神殿遺跡が立地する北部ペルーの関連地域において、環境条件が異なる場所で、幾つかの神殿遺跡を選定し（山間盆地、河谷流域、海岸平野部）同じ枠組みのもとで、総合調査・集中発掘調査を行って、厳密な比較が可能となるデータを収集する。また、必要に応じてクントゥル・ワシ神殿とその近隣の補充調査を実施する。 （３）関連地域社会における発展のプロセスを明らかにする。 関連地域社会（山間盆地、河谷流域、海岸平野部）それぞれにおける発展プロセスを具体的に把握し、その内的要因を解明する。 （４）アンデス社会における文明の形成プロセスを解明する。 関連地域社会で得られたデータの比較検討を通じて形成期中・後期におけるクントゥル・ワシ神殿の中心性をあきらかにするとともに、各地域社会間の相互関係を把握し、この大神殿を求心力とする広域社会全体の発展プロセスを解明する。 これらの研究を通じて、紀元前 1 千年紀に南米ペルー北部地方で展開したアンデス文明形成の独特なプロセスを解明し、さらに人類史全体における文明の形成という大きな問題についての一般理論に貢献することを目指す。							

これまでの研究経過（研究の進捗状況について、必要に応じて図表等を用いながら、具体的に記入してください。）

（１）クントゥル・ワシ神殿遺跡データベースの作成

クントゥル・ワシ神殿遺跡の発掘資料のうち出土遺物はすべて現地ペルーのクントゥル・ワシ博物館で保管している。平成 14・15 年度は、この現地博物館において土器、石器および獣骨資料などの整理と分析を行った。現時点では、平成 14 年度に実施した補充調査を含めると 12 シーズンにわたる発掘で出土したすべての遺物資料について再整理を済ませ、分析のための基礎作業を完了させている。

一方、写真、実測図面、発掘日誌、遺物台帳等の記録は、すべて、埼玉大学 21 世紀総合研究機構内の短期プロジェクト研究室に集中させた。そこを研究拠点として機器購入などデータベース作成のための環境整備を図り、現在、すべての資料についての電子ファイル化を進めている。

（２）関連地域における複数の神殿遺跡の調査によるデータの充実

クントゥル・ワシ遺跡はアンデス山脈の西側斜面、太平洋に注ぐヘケテベケ河水系の上流部（標高 2200m）に位置する形成期（紀元前 1 千年紀）の神殿である。その関連地域として 直接の近隣地域水系をさかのぼり分水嶺を越えた東側にある大山間盆地のカハマルカ（標高 2700m）、ヘケテベケ河の中流域テンブラデーラ地域（標高 500m）、さらに下流の海岸平野部（標高 50m）を設定して、それぞれの地域において以下のような調査を実施し、関連資料の充実を図った。

近隣地域では、平成 15 年度にクントゥル・ワシ神殿の半径 5 キロ以内の範囲で 11 遺跡、さらに近隣周辺の三地域で 8 遺跡の踏査を実施し、表面に散布する土器破片の情報から時期の同定を行った。その結果、神殿付近で 5 遺跡、近隣で 3 遺跡が同時期の形成期遺跡であることを確認した。

カハマルカ盆地では、平成 14・15 年度に、広範囲にわたる遺跡の分布調査を実施、総計 247 遺跡を踏査して基本データを得た。あわせて土器製作に用いられていた粘土や混和材鉱物の盆地内における分布状況を把握した。また、カハマルカ近郊の湖、湿地 2 カ所において花粉分析用のボーリング調査を実施し、古気候復元のためのデータを収集した。

ヘケテベケ河中流域のテンブラデーラでは、平成 15 年度に形成期の神殿ラス・ワカス遺跡の発掘調査を実施したほか、周辺の遺跡の踏査を行い、同時期についての関連データを得た。

海岸平野部では、平成 14・15 年度に、形成期の神殿リモンカル口遺跡の発掘調査を実施したほかヘケテベケ河下流域の広い範囲にわたって遺跡踏査を行い、同時期にあたる 13 の遺跡を確認した。

（３）関連地域社会における発展のプロセスの解明

クントゥル・ワシ神殿については、厳密な編年を確定し、以下の四時期において神殿建築が増改築される具体的な様相を把握することができた。A) イドロ期：前 1100-800 年、二つの建築フェイズ、B) クントゥル・ワシ期：前 800-500 年、二つの建築フェイズ、C) コバ期：前 500-250 年、三つの建築フェイズ、D) ソテーラ期：前 250-前 50 年、二つの建築フェイズ。

カハマルカ盆地の形成期社会については、かつて 1979-1989 年に実施した調査研究により、すでに基本的な編年は確立している（前期ワカロマ期：後期ワカロマ期：EL 期：ライソン期）。今回の調査では、この編年体系をもとに盆地全体の広い範囲における形成期社会の様相を把握することに努めた。得られたデータからは、この山間盆地における当時の経済システムの部分的復元や、土地利用のあり方について、新たな解釈を与える見通しが得られた。また、生態環境利用の変化を捉えるための花粉分析データを得た。

ラス・ワカス神殿遺跡の発掘では、二つの建築フェイズを確認し、幾つかの基壇・広場などが改修・拡張されて一つの大きな神殿複合になるプロセスを具体的に把握することができた。そして周辺に幾つか存在していた神殿が、この第二フェイズになると放棄され、巨大化したラス・ワカス神殿が地域社会統合の中心となることがわかった。

リモンカル口神殿遺跡の発掘では、二つの時期を確認し、前期の小型の構造物を基礎として、後期になると方形広場の周りに三つの基壇が配置される本格的な構造物の神殿が建立されるプロセスを把握した。また、この神殿は、後期において少なくとも三回の増改築が行われたこと、一回目の改築時に、壁面に見事な動物表象のレリーフが飾られるなどの洗練が生じたことがわかった。

（４）アンデス社会における文明の形成プロセスの解明

これまでのところ調査したそれぞれの地域社会が、たしかに形成期において相互に関係を持つ大きな広域社会を構成していたという見通しが得られる。しかし、地域ごとの社会発展のプロセスは必ずしも同一とはいえず、かなり複雑な相互関係にあったようだ。クントゥル・ワシ神殿の中心性について、まだ確実なデータは得られていない。したがって、さらなるデータの充実が必要となっている。

特記事項（これまでの研究において得られた、独創性・新規性を格段に発展させる結果あるいは可能性、新たな知見、学問的・学術的なインパクト等特記すべき事項があれば記入してください。）

研究の中心は、先史アンデス文明の形成期（紀元前 1 千年紀）における大神殿クントゥル・ワシ遺跡について実施してきた長年にわたる調査研究成果の集大成と、全発掘資料のデータベース化である。

クントゥル・ワシ神殿遺跡の発掘調査は、1988 年以来 12 シーズンにわたって大規模に実施され、多くの金製品を伴う特別な墓の発見などで国際学界において大いに注目された。そして、先史アンデス文明の形成と発展を解明する最重要遺跡の一つとしての評価が定着している。その調査研究の成果については、すでに、さまざまな形で部分的に公表してきたが、今回、準備を進めているのは、研究の集大成としての最終報告書の公開であり、これは多くの研究者が待望しているものである。

この最終報告書の完成とともに、すべての発掘資料の公開を目指す。クントゥル・ワシ神殿遺跡の発掘調査で得られたデータは、質量ともに第一級といえる。これらの第一次資料を多くの研究者に利用可能な形で公開することの意義はきわめて大きい。長期間にわたり大規模に実施された発掘調査にもとづく遺跡データベースは、先史アンデス研究では例がなく、今後のモデルケースになるであろう。

ところでクントゥル・ワシ神殿遺跡で実施した調査研究の集大成にあたっては、たんに個別遺跡の発掘結果についての記述的報告書の公開にとどまるのではなく、紀元前 1 千年紀において、北部アンデス地域で展開した文明形成のプロセスを実証的に解明することを目指す。クントゥル・ワシ神殿は、生態環境も多様な広域社会の中で、その中心的位置を占めていたことは間違いない。クントゥル・ワシ遺跡の豊富なデータを真に生かすためには、そのような広域社会における位置づけを問題にする必要がある。

クントゥル・ワシ遺跡はアンデス山脈西側斜面、太平洋に注ぐヘケテペケ河水系の上流部（標高 2200m）に位置する神殿である。そこで、この河の流域全体（中流域から下流の海岸平野部まで）と、さらに、水系をさかのぼって分水嶺を越えた東側の大きな山間盆地までを相互に関連する一つの広域社会として設定し、その要所において考古学調査を実施して、関連資料の充実を図ることにした。約 200 キロにおよぶ河川流域全体を視野に入れ、たんなる踏査ではなく、共通の目的の下でインテンシブな発掘調査を実施したケースはこれまでのアンデス先史研究では稀といえる。

調査対象を点と点で結ぶ手法ではなく、少なくとも太い線、あるいは面としてとらえ広域社会の全体的理解を目指すという手法が可能となるのは、これまでに蓄積してきた経験と実績によるところが大きい。研究チームは、1979 年に山間盆地カハマルカの調査を着手したのを始めとして、その後のクントゥル・ワシ神殿遺跡の発掘調査や、それと並行して各地で発掘調査を実施してきた。今回の調査はそれらの成果を踏まえた形で行なわれるものである。

一方で、今回の調査研究の特徴としては自然科学の研究分野との連携があげられる。とりわけ、データの分析に携る理系の研究協力者と現地において共同調査を実施することで、資料分析の厳密化、精緻化を図るとともに、新しい研究展開の可能性を見出すことが期待される。たとえば平成 16 年度には、携帯型蛍光 X 線装置を現地に持参して調査分析を行うことになった。とくにクントゥル・ワシ神殿遺跡出土の特徴的な遺物である金製品や方ソーダ石製玉を、広く他地域の出土品等と比較分析することで、原材料の流通に関するあらたな知見が得られることになる。

クントゥル・ワシ神殿遺跡の調査研究は、現地ペルーでは、広く一般の人々の関心も集めた。文化遺産としての価値を持つ貴重な出土品については、現地の村に建設した博物館に保管し、一般に公開している。また、2000 年から 2003 年にかけて、国連ユネスコ（日本信託基金）のプロジェクトとして、埼玉大学チームがクントゥル・ワシ神殿遺跡の修復・保存事業を実施した。その結果として、今は、遺跡そのものも一般に公開されるようになった。今回の研究は、この十年余、一般にも広く注目された発掘調査の成果を学術面において最終的に集大成させ、それを公表することを目指している。

研究成果の発表状況 (この研究費による成果の発表に限り、学術誌等に発表した論文(発表予定のものを記入することも可能。)
の全著者名、論文名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)、及び国際会議、学会等
における発表状況について記入してください。)

ペルー国文化庁 Instituto Nacional de Cultura, Perú に以下の成果報告書を提出。

- (1) Onuki, Yoshio, Walter Tosso y Yasutake Kato: *Proyecto Arqueológico Kuntur Wasi 2002*, Instituto Nacional de Cultura, 153 頁, 2002.11
- (2) Seki, Yuji y Juan Ugaz: *Informe Preliminar del Proyecto de Investigaciones Arqueológicas en el Valle de Cajamarca (Temporada 2002)*, Instituto Nacional de Cultura, 45 頁, 2002.10
- (3) Sakai, Masato y Juan Martínez: *Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2002*, Instituto Nacional de Cultura, 62 頁, 2002.10
- (4) Seki, Yuji y Clorinda Tejada: *Informe Preliminar del Proyecto de Investigaciones Arqueológicas en el Valle de Cajamarca (Temporada 2003)*, Instituto Nacional de Cultura, 84 頁, 2003.9
- (5) Sakai, Masato y Juan Martínez: *Informe Preliminar de las Investigaciones Arqueológicas del Templo de Limoncarro en el año 2003*, Instituto Nacional de Cultura, 42 頁, 2003.9
- (6) Tsurumi Eisei, Regina Abraham Fernandez y Yasutake Kato: *Proyecto Arqueológico: Las Huacas, Valle Medio de Jequetepeque, Provincial de Contumaza, Depto. de Cajamarca*, Instituto Nacional de Cultura, 88 頁, 2003.10

学術誌等に発表した論文。

- (1) 関雄二: 「古代アンデスにおける国家の起源」 初期王権研究委員会編『古代王権の誕生、東南アジア・南アジア・アメリカ大陸編』 pp.211-231、角川書店、2003
- (2) 坂井正人: 「先スペイン期におけるエル・ニーニョとアンデス文明の展開」 安田喜憲編『環境考古学ハンドブック』 pp.620-625、朝倉書店、2004
- (3) 加藤泰建: 「先史アンデス社会における文明の形成プロセスの解明: 2003 年度調査報告」『プロジェクト研究成果報告書』 pp.99-102、埼玉大学 21 世紀総合研究機構、2004
- (4) 関雄二、米田穰: 「ペルー北高地の形成期における食性の復元—炭素・窒素同位体分析による考察—」『国立民族学博物館研究報告』 28(4): 515-537、2004

国際学会 *El XI Congreso de la Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe (FIEALC 2003 in Osaka 2003.9.25)*においてシンポジウム Simposio Kuntur Wasi; desarrollo de la sociedad del período Formativo en la sierra norte del Perú を組織し、成果報告を行った。発表概要は抄録に掲載、発表内容は *El Acta del XI Congreso de la FIEALC 2003 en CD-ROM*, (in press)として公刊予定。

- (1) Kato Yasutake e Inokuchi Kinya: Los contextos arqueológicos de los funerarios especiales en Kuntur Wasi, *Programa Oficial y Resúmenes*, pp. 119, 2003
- (2) Seki, Yuji y Hirao Yoshimitsu: El desarrollo de la sociedad del período Formativo: una perspectiva a través del análisis metalúrgico, *Programa Oficial y Resúmenes*, pp. 119, 2003
- (3) Sakai, Masato y Hiroe Nishizawa: Las actividades productivas en el templo Formativo: una perspectiva a través del análisis de los objetos líticos y huesos trabajados, *Programa Oficial y Resúmenes*, pp. 119-120, 2003

ワークショップ『フィールド・サイエンスの成果は誰のものか』(海外学術調査総括班主催、東京外国語大学アジア・アフリカ研究所、2003.6.19)において講演。

- (1) 加藤泰建: 遺跡発掘と文化遺産の保存 - 南米ペルーにおける考古学調査の事例から -
現地ペルー国カハマルカ市で開催された文化庁主催の研究集会(2003.8.22)において講演。
- (1) Seki, Yuji y Yoneda Minoru: Reconstruir la dieta alimenticia del período Formativo en Cajamarca.

古代アメリカ学会第8回研究大会(早稲田大学、2003.11.29)において以下の研究成果を口頭発表。

- (1) 加藤泰建: 先史アンデス社会における文明形成プロセスの解明
- (2) 関雄二: カハマルカ盆地の一般調査
- (3) 坂井正人: 形成期神殿リモンカル口の発掘調査 2003 年度

動物考古学第7回研究集会(岡山市埋蔵文化財センター、2003.11.9)において研究成果を口頭発表。

- (1) 鵜澤和宏、関雄二、加藤泰建、井口欣也、坂井正人、大貫良夫: 形成期アンデスにおける動物考古学研究の展開と展望